

にいがた 畜産協会たより

公益社団法人
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15
全農にいがた第2ビル内
TEL.025-234-6781~6783



自然界で36年ぶりにトキの
ひな誕生 写真提供(環境省)



佐渡産をPRするトキパック牛乳



ドンデン山の和牛放牧 写真提供(佐渡市)

目次

〈特集〉

- ◆平成24年度定時総会開催結果 …………… (2)
- ◆祝トキの雛誕生 畜産の発展にかける思い
佐渡市役所農林水産課長 渡辺竜五 …… (4)
- ◆佐渡の耕地と豊かな自然の維持のために
…和牛飼育40年の営み…
佐渡市入川 池野俊男 … (4)
- ◆宮田萬司氏に瑞宝双光章が授与される
～本県の畜産振興に多大な貢献～ …………… (5)
- ◆にいがた和牛推進協議会
「平成24年度事業実施計画」決まる …………… (5)
- ◆自主的に防疫体制を整備し、万一の危機に備える経営体を応援します!
～平成24年度家畜衛生関係事業から～ …… (6)
- ◆声のコーナー …………… (7)
「好きを仕事に ホルスタインと経済動物」
酪農経営:新発田市 尾田 拓志
「後を継ぐこと」
養豚経営:新発田市 相馬 成実
- ◆畜産安心ブランド生産農場だより …………… (8)
新発田市:農事組合法人 石山農産
- ◆畜産物市況 …………… (8)
- ◆編集後記 …………… (8)

平成24年度定時総会の開催結果

平成24年度定時総会を平成24年5月30日午後1時30分から新潟市中央区の「新潟県自治会館会議室」において開催しましたので、議事の経過と議決事項についてお知らせします。

1 経過

(1) 出席会員数の報告

事務局から正会員66名中、当日出席24名、書面出席41名あわせて65名の出席により、平成24年度定時総会が成立することを報告した。

(2) 今井会長挨拶

出席会員と来賓の新潟県農林水産部長に謝意を表し、原子力発電所の事故により発生した放射性セシウム汚染牛肉問題や最近における畜産経営の状況に対する当協会の取組みを述べたうえで、補填金等交付額（緊急支援金含む。）が9億6千百万円を超え過去最高額となったこと、一方、収支決算では650万円余りの赤字となったことから、今後は適正な繰越額と独自事業費のバランスを検討していく考えを述べた。なお、前年度に発生した不適正執行に対し適正実施の取組みを強化したことを報告した。

最後に議案の慎重審議をお願いして挨拶とした。

(3) 祝辞(新潟県農林水産部長)

目黒部長から当協会が本県の畜産振興に大きく貢献していることへの感謝が述べられ、次に最近の畜産情勢に触れ、畜産物の価格低迷や配合飼料価格の高止まりにより経営は厳しい状況にあることを述べ、県として県内産稲ワラの供給拡大について一定量の目標を達成したことを報告し、畜産農家の経営安定のために生産性向上、六次産業化の取組みを継続していくこと、また鳥インフルエンザ等に対して万全な防疫体制を整備している旨を述べた。最後に当協会が本県の畜産振興に尽力していくことを期待するとの祝辞を頂戴した。



(開会の挨拶をする今井長司会長)

2 議案の審議と結果

今井会長が議長となり、鶴巻専務理事が議案説明を行い、慎重審議のうえ採決した結果、第1号、第2号及び附帯決議の全議案を、出席者全員（書面決議を含む）の賛成により原案どおり決議した。

○ 提出議案

- 第1号議案 平成23年度事業報告及び収支決算報告について
第2号議案 役員の改選について
附帯決議

平成23年度事業報告及び収支決算報告について(概要)

○ 事業の実施概要

1 補填金交付額

(単位:千円)

事業名	交付額
肉用子牛生産者補給金制度	88,921
肉用牛肥育経営安定特別対策事業(新マルキン)	410,321
養豚経営安定対策事業(22年度第4四半期分のみ)	42,241
合計	541,483

2 経営指導実施戸数

(単位:戸)

区分	酪農	肉用牛	養豚	計
緊急課題対応型指導	3	3	3	9
総合指導	3	3	3	9
ワンポイント指導	2	6	2	10
フォローアップ指導	1	6	2	9
合計	9	18	10	37

3 畜産経営体質強化サポート事業

(単位:戸)

区分	酪農	肉用牛	養豚	計
実施戸数	3	2	3	8

4 畜産安心ブランド認定事業

認定委員会で新規9農場を審査の結果、全農場の認定を決定した。

認定農場数（平成24年3月末現在）

区 分	新規認定数	認定農場合計 (認定割合)
乳用牛(クリーンミルク)	3	56(20%)
肉用牛(クリーンビーフ)	6	73(44%)
豚(クリーンポーク)	0	66(43%)
採卵鶏(クリーンエッグ)	0	18(49%)
肉用鶏(クリーンチキン)	0	19(90%)
計	9	231(35%)

5 肉用牛肥育経営緊急支援事業

(1) 支援金交付状況

(単位:人、頭、千円)

区 分	対象者	頭 数	交 付 額
緊 急 支 援 金	54	6,425	321,250
価 格 低 下 支 援 金	22	819	98,450
計		7,244	419,700

(2) 支援金の返還状況

(単位:千円)

区 分	交付額	返還済額	未返還額
緊 急 支 援 金	321,250	36,300	284,950
価 格 低 下 支 援 金	98,450	250	98,200
計	419,700	36,550	383,150

〔参考〕本事業の当協会の経理方法

・ 交付



- ① 補助金の受入：収入（負債の増）
- ② 支援金の交付：支出（資産の増）

・ 返還



- ① 支援金の返還：収入（資産の減）
- ② 補助金の返還：支出（負債の減）

○ 決算の概要

1 資 産

- ・ 期末の資産合計額は1,772,280千円で、期首と比較して336,215千円増加した。
- ・ 増加の主な要因は、肉用牛肥育経営緊急支援事業(以下「支援事業」という。)で交付した支援金を資産に計上したことによる。

2 負 債

- ・ 期末の負債合計額は765,533千円で、期首と比較して481,324千円増加した。
- ・ 増加の主な要因は、支援事業の(独)農畜産業振興機構から交付された補助金は負債に計上したことなどによる。

3 正味財産

- ・ 期末の正味財産合計額は1,006,746千円で、期

首と比較して145,108千円減少した。

- ・ 主な要因は、負債で管理していた一つの準備金を一般正味財産で管理することに変更したことから32,524千円増加し、補填事業の生産者積立額を指定正味財産から負債に振替えたこと、養豚経営安定対策事業の終了に伴い当該事業の補填財源を精算したこと等により177,632千円の減少となったことによる。

4 予算対比

- ・ 正味財産期末残額は、予算額の1,039,835千円に対して、決算額では1,006,746千円となり33,089千円減少した。
- ・ 主な要因は、支援事業の支援金返還が東京電力の損害賠償金の確定が年度末までになかったことから、事業対象者からの受取返還が30,950千円減少したことによる。

5 事業区分別の費用比率

- ・ 公益目的事業の費用の比率が99%で、なかでも損失補填事業が52.9%、緊急支援事業が41.7%となった。

役員の変更について

会員から推薦のあった理事候補者12名、監事候補者3名について採決し、出席者全員の賛成で選任されました。なお、任期は平成26年5月30日までの2年間です。

また、総会終了後に臨時理事会を開催し、会長、副会長及び専務理事の互選を行った結果、いずれも再任されました。

一方、監事により監事代表の互選を行った結果、これまでの監事代表が再任されました。

○ 新役員体制

役 名	氏 名
会 長	今 井 長 司
副 会 長	小 林 則 幸
専 務 理 事	鶴 卷 藤 太 郎
理 事	石 田 司
理 事	石 橋 文 夫
理 事	吉 見 均
理 事	小 玉 昭 吉
理 事	楠 原 征 治
理 事	井 口 一 郎
理 事	上 村 憲 司
理 事	齋 藤 松 郎
理 事	服 部 武
監 事 代 表	澤 口 茂 利
監 事	高 橋 一 五
監 事	近 山 隆 夫

今年春の36年ぶりとなる自然界でのトキの雛誕生を機に「佐渡の畜産」に寄せる想いを、佐渡市農林水産課長 渡辺竜五氏と肉用牛農家の佐渡市入川 池野俊男氏に寄稿をいただきました。

祝 トキの雛誕生 畜産の発展にける思い

佐渡市農林水産課長 渡辺 竜五

東日本大震災から一年が経過し、被災地の一日も早い復興を心から祈念いたします。そのような中、復興の後押しとなるような明るい希望あるニュースとして、トキの自然界ヒナ誕生を、佐渡からお届けできることは最高の喜びです。

自然界でのトキのヒナ誕生は36年ぶりの事で、佐渡市民の悲願でした。その後も、ヒナが次々と巣立ちを迎えています。

佐渡市では、トキの野生復帰のため餌場確保として、水田を中心とした生物多様性を保全する取り組みをすすめており、世界農業遺産の認定など世界から高い評価を受けております。畜産業においても豊かな採草放牧地の保全と循環型農業の推進はトキの野生復帰の一員として役割を果たしております。

佐渡の畜産は肉用牛と酪農が主体であり、肉用牛部門では島内の子牛市場の活性化を図るため、これまでも繁殖牛の増頭のため市としても増頭希望者を対象とした、奨励金制度等に取り組んできました。今年度からはさらに血統の底上げを推進するため、高能力牛の導入に対する助成制度により、佐渡牛ブランドの向上を目指しております。また、今年度は全国和牛能力共進会の開催年であり、佐渡からの出場も期待される所です。

酪農部門については、これまでも新潟県畜産協会が認定するクリーンミルク生産農場の普及のため取り組んできましたが、昨年度約8割の酪農家が認定され今後も全戸認定のため、関係機関と共に推進を図っています。佐渡には地元の酪農工場があり、クリーンミルク生産農場限定牛乳として、トキの姿を模したトキバック牛乳を販売しており、その売上げの一部は佐渡の森林整備事業に寄付される仕組みになっています。

農業が環境や地域経済を守り、トキを育む島を作りあげていくことに畜産業が今後とも大きな役割を果たすことにより、トキをはじめたくさんの生きものが人と豊かに共生できる島を作っていきたいと考えております。

佐渡の耕地と豊かな自然の維持のために … 和牛飼育40年の営み …

佐渡市入川 池野 俊男

私は和牛飼育を始めてから、40年余となりました。

その間に色々なことを試行しました。「和牛繁殖・肥育一貫経営への取り組み」、「共同経営による地域一貫経営への取り組み」、「和牛E T子牛の哺育・育成」等々。

しかし、その間は失敗続きで、地獄の底をはいつくばったような苦しみの連続でありました。

当時私は役場に勤務する獣医師でもあり、地域に貢献する産業を作り上げることが命題でした。

地域の一大産業としては確立できなかったけれど、現在なおこの地域は和牛産地として生き残っています。

現在の私の取り組みは、和牛繁殖(45頭)と稲作(9.5ha)の複合経営で、本格実施から8年が経過しました。現段階では完全に確立されたものとなっておりませんが、何かが見えてきたような気がします。

一つは、稲作と和牛の相性の良さです。和牛から産出した厩肥を田んぼに施用し、田んぼから産まれた稲ワラとクズ米と米ぬかを、和牛に還元するという循環が成立しています。

田んぼは、厩肥の施用により、化学肥料の施用が削減され、肥沃となり、またドジョウをはじめ様々な生物を養成する場となってきました。

もう一つは、長年大佐渡山系(ドンデン山)に自然放牧を行っておりますが、その放牧された牛たちが、芝を食することにより、山の荒廃を防ぎ、ドンデン山の自然景観を維持してきました。

佐渡に和牛が渡ってから1200年が経つようですが、佐渡の豊かな自然は、このように和牛と人の長い営みから生じたものと思われま。

これからも佐渡から和牛の灯を消してはなりません。佐渡の耕地と豊かな自然を維持するためにも。

宮田萬司氏に瑞宝双光章が授与される ～ 本県の畜産振興に多大な貢献 ～

宮田萬司氏がこの度満88歳（大正13年5月生まれ）を迎えられ、地方自治功勞で叙勲の榮に浴されました。

氏は、昭和19年9月に、東京高等獣医学校（現日本大学生物資源科学部獣医学科）を卒業後、昭和20年から県庁職員として36年余勤務され、中央家畜保健衛生所長（昭和45年10月から53年3月）、養鶏試験場長（昭和53年4月から54年3月）、畜産課長（昭和54年4月から56年3月）の要職を歴任し、畜産行政分野において、豊かな見識と卓越した指導力を発揮し、本県畜産の振興に多大な貢献をされました。

氏は、昭和56年3月に新潟県を退職後、多年にわたる畜産行政の中で体得した豊富な経験と持ち前の指導力を請われ、昭和56年6月から61年6月までの5年間、当協会の前身（統合前）である社団法人新潟県畜産物価格安定基金協会の専務理事に就任されました。

同協会は、畜産物の価格変動により生ずる生産者の損失を補填すること等により、生産及び価格の安定を図るとともに、生産者の経営の健全な発展を図ることを目的に、昭和40年1月に発足した団体であり、氏は、事業制度の普及に努め、生産者の加入拡大と基金の的確な運用により、畜産経営の安定、健全な発展に寄与し、その功績は高く評価されています。

また、氏は同時に昭和57年5月から61年4月までの4年間、同じく当協会に統合前の社団法人新潟県家畜畜産物衛生指導協会の監事を務められ、家畜自衛防疫事業の発展、定着にも大きな貢献を果たされました。

このたびの叙勲を心からお祝い申し上げますとともに、益々のご健勝を祈念いたします。

にいがた和牛推進協議会「平成24年度事業実施計画」決まる

にいがた和牛推進協議会は、平成24年5月22日新潟市西区のJA全農にいがた県本部ビルで総会を開催し、平成24年度事業実施計画を次のとおり決定した。

重点事業

1 流通・販売拡大対策

首都圏における販売促進対策

大きな情報発信力と購買力のある首都圏において、実需者及び消費者に対する「にいがた和牛」のPRに努め、消費拡大を図る。

○実需者対策

首都圏における販売拠点の構築のため、会員の卸売業者、生産者団体及び肥育名人等で構成する「販路開拓チーム」を設け、「にいがた和牛」取扱店の新規開拓活動に取り組む。

○消費者対策

首都圏における「にいがた和牛」の消費拡大を図るため、表参道・新潟館ネスパスにおいて夏と冬の需要期に向け「にいがた和牛」の試食、精肉販売等のイベントを行う。

2 生産振興対策事業

にいがた和牛肥育名人マンツーマン指導

前年度に引き続き、畜産協会が選定した枝肉格付率の向上が必要な経営体に対して、当協議会が「にいがた和牛肥育名人」を派遣し、マンツーマンでの技術指導を実施し、にいがた和牛の生産頭数の増加につなげる。

その他

平成25年度には協議会設立10周年の節目を迎えることから「第二期にいがた和牛銘柄確立」を推進するための記念事業を行うこととして、準備を開始する。

自主的に防疫体制を整備し、万一の危機に備える経営体を応援します！ ～ 平成24年度家畜衛生関係事業から ～

当協会は、家畜衛生関係の公益目的事業として、家畜防疫を徹底するための経費に対して助成を行う事業（公3）及び衛生管理基準を充足した畜産経営体を認定する事業（公4）を実施しています。

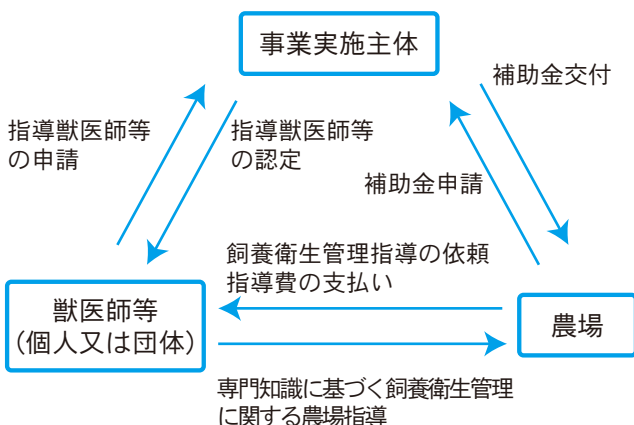
本年度は、従来からの事業内容に加え新たに実施する事業や仕組みを変更して新たな業務対象年間がスタートする事業があり、その概要をお知らせしますので、積極的な取組をお願いします。

1 農場飼養衛生管理強化対策事業

本事業は、従来から実施している家畜生産農場清浄化支援対策事業の拡充メニューとして新規に設定され、生産者が自主的に民間獣医師等の専門家による衛生指導を受けるための取組を支援するものです。

具体的には、生産者が当協会の講習会を受講した「指導獣医師」に依頼し、農場の実態に基づく「飼養衛生管理基準」のチェックと改善指導を受けます。生産者は、指導獣医師に指導費を支払い、当協会に補助を申請することにより、指導費の1/2以内(上限：1農場1回5,000円)を限度に補助金を受けることができます。

本年度は、初めての取組であることから、モデル的に事業対象を限定して実施しますが、このように、生産者が飼養衛生管理の向上のために自主的に対価を払って獣医師等の指導を受ける取組は、これからの推進すべき家畜自衛防疫の方策として、支援が継続されるものと想定していますので、関係者が積極的に受け止め対応を検討することが望まれます。



【事業の仕組み】

2 家畜防疫互助基金支援事業

本事業は、口蹄疫、豚コレラ等の悪性伝染病が万一発生した場合、畜産経営への影響を最小限に緩和するため、生産者自らの積立による基金に国の支援を加えて発生時の損害に対し互助補償を行う事業で、本年度から3年間の新たな業務対象年間に入りました。

(1) 今期事業のポイント

家畜伝染病予防法の改正に伴い、

- ① 移動制限区域等における殺処分も補償されるので、従来のように互助金が廃止された。
- ② 予防的殺処分の対象となった家畜も互助金の交付対象に追加された。

前期事業での基金の枯渇を踏まえ、発生想定を見直して基金を設計し、

- ③ 牛の生産者積立金は8.39億円規模(前期の6.5倍)、豚の生産者積立金は3.84億円規模(前期の1.5倍)とした。

前期で宮崎県への互助金交付のため国が立て替えた生産者積立金相当額を返還するため、

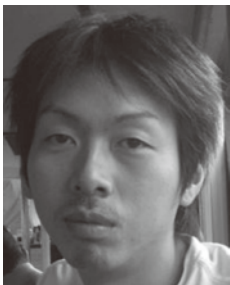
- ④ 今期から、事業期間終了時点での基金残額の1/2を返還に充て、残りが加入者に返戻される。

(2) 加入契約手続

所定の契約申込書と契約書を作成して当協会に7月20日までに提出するとともに、契約頭数に生産者積立金の単価を掛けた金額を8月10日までに納付していただきます。前期に生産者積立金を積み戻された方は、その金額が返戻されるので相殺して差額を納付することになります。

これらの事務手続を円滑に進めるため、農業協同組合等に事務委託をお願いしています。これらの団体に所属されない方は、直接、当協会にお問い合わせください。

口蹄疫は、現在でも周辺国で発生があり、我が国への侵入リスクは依然として高いことから、万一の場合にも経営を再開できる備えをお願いします。



酪農経営

新発田市荒町

尾田 拓志



養豚経営

新発田市法正橋

相馬 成実



『好きを仕事に ホルスタインと経済動物』

こんにちわ。今年で就農8年目を迎えました。

まず、私が酪農に就農した経緯から紹介します。

子供の頃は、よく牧場に遊びに行ったりしていましたが、特別、牛が好きと言うわけでもなく、逆に、休みのない牛飼いの仕事を自分はやらないだろうなと思っていました。

中学からソフトテニス部に入り、熱心な先生に巡り会ったこともあり、インターハイに出場することができました。高校生になって、将来は教師として指導者へという思いから、一浪して文系の大学へ入学しました。

しかし、その夢も中途半端だったため断念し、大学4年の春、就職活動中に「家業を継ごうかな?」という気持ち少しずつ現れ、22歳の時に一生、酪農をやりたいと決断しました。

その頃は「何で牛が乳を出すのか?」すら分からなかったため、まず牛と酪農を好きになって熱中したいとの思いから、2年間、酪農実習に行くことに…。この2年間で、多くの人に会えたこと、引っ込み思案な性格が少し改善されこともあり、心から行って良かったなと思いました。

その後、少しの知識を持って就農し、最初の1年間は割りとうまくいったのですが、飼養管理、繁殖、堆肥の管理など、何でも自分でやるようになってから、うまくいかないこともあり、親父とのケンカも…。

しかし、最近になって少しずつ成績は改善されてきたように思えます。ここまで来れたのは、仕事を任せてくれている父や家族、関係機関の皆さん、青年部の先輩、友人たちのおかげだと思っています。

あの頃は、エサにしる繁殖にしる分かった気になってただけで、全然だめだったなと…。

最後に、私にとって「ホルスタイン」を一言で言うと「すごい」だと思っています。1頭から1日に30～40kgの生乳が、ふん尿は畑の肥料となり、生まれた子牛は雄なら肉用牛になるし、とても経済効果の高い動物だと思います。

しかし、生乳・食肉を生産するためにだけに飼われていると考えるとかわいそうだなあと思う時もあります。今でも親牛から子牛を引き離す時は辛いものです。

「経済動物」であるホルスタインですが、何とか資金を工面し、過ごしやすい牛舎に改善して、牛にもできるだけ楽をしてほしい。そんな思いと初心を忘れずに今後も頑張っていきたいと思っています。

『後を継ぐこと』

私が父の後を継ぐことを決意し、養豚の仕事を始めてもう1年以上が経過しました…とは言っても完全に継いだ訳ではありません。

子供の頃から親の背中を見て育ってきましたが、そのときには自分が養豚をするなんて夢にも思っていませんでした。しかし、ある時、ふと思ったのが、親がやっているこの養豚の仕事をいったい誰が続けていくのだろうか?ということです。やはり、いちばん身近で見ていた自分がやらなければいけないと考え、継ぐことを決意しました。

ただ、今まで手伝い程度しかしたことがなく、高校も工業科という全く関係のない道に進んでいたもので、農業に関して右も左も分からないまま養豚の世界に飛び込んでいきました…当然、日々覚えることばかりです。でも、これはこれで前向きに考えれば、無駄な知識をもっていないので、教えられることの全てを吸収でき、いいことだと思っています。しかも、直接養豚のプロフェッショナルに指導してもらっているので、間違いはないと思っています!!

今は親と一緒に仕事をしているので、経営に関して大きな疑問はまだないのですが、今後、この仕事をやっていって壁にぶつかることもあると思います。そのときは、それまで得た知識を生かしつつ、自分なりのやり方、時代に合った自分の考えを取り入れて、その壁を乗り越えたいと思っています。

農業全体の問題となっている経営者の高齢化、そして自分のような若い世代の後継者が少なくなっている中で、少しでも畜産に興味を持ち、後を継ぐ人が増えるきっかけになってくれればいいなと思いながら、この文章を書いています。なかなか増えないのが現状だと思います。

私自身もまだ仕事を始めたばかりで不安も多く、学ぶこともたくさんあるので、当然「畜産家」と名乗れるほどの力を備えていません。将来、親の後を完全に継いで、自分の力でやっていけるようになったときに本当の意味で「畜産家」としてスタートラインに立てるのだと思っています。

畜産安心ブランド生産農場だより

新発田市：農事組合法人 石山農産

我が社は、新発田市の北部で、櫛形山脈と海岸部の中間に位置し、牛舎は南北に長く、夏涼しく冬は防寒対策のし易い配置となっています。

飼養規模は、粗飼料の自給量(河川敷牧草と稲わら)の範囲をモットーにしています。衛生面では、消毒槽の設置、朝夕の清掃、定期的な消毒・殺虫(6~10月)、水槽掃除等は必須作業としています。堆肥処理については、戻し堆肥とモミガラの効果的利用、1週間毎の切り返し、生菌剤の効果を活かして完熟堆肥作りに専念し、95%ほどを販売して貴重な収入源となっています。

飼養管理は、個体管理を心がけ、特に8か月齢~18か月齢の間は、牛とのコミュニケーションによるストレス緩和と敷料の節減のために、毎朝、牛房に入り、スコップによる除糞作業をしています。

肉質向上と牛の健康管理の確立に向け、家畜保健衛生所による血液検査や細菌検査のデータを基にした検討会を実施しながら対策を講じています。

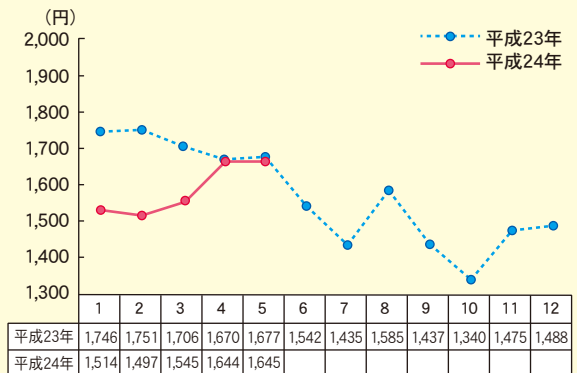
また、飼養管理簿を牛舎内に置き、その都度記入しており、それが牛群毎、個体毎のカルテにもなっており、改善に役立っています。

今後とも、「クリーンビーフ生産農場」であることを念頭に置き、消費者により美味しく安心して食べていただける牛肉作りに励みたいと思っています。

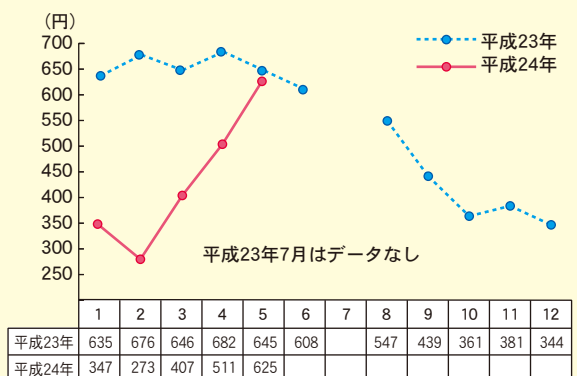


畜産物市況

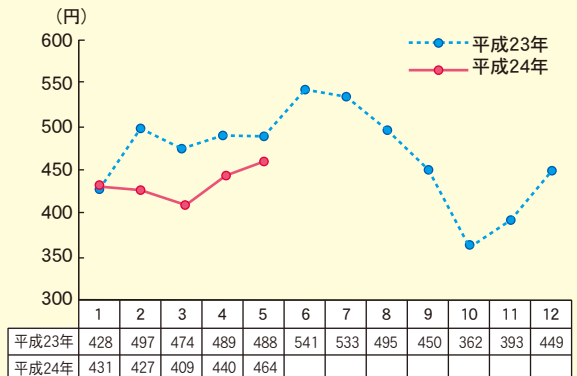
牛枝肉相場・和牛去勢A-4(東京市場)



牛枝肉相場・乳用種去勢B-2(東京市場)



豚枝肉相場・上(東京市場)



編集後記

トキの自然復帰が36年ぶりに成遂げられたことは、昨年から今年にかけ相次いで自然災害に見舞われた本県にとって久々に明るいニュースとなり、新潟県民の大きな喜びであります。

このトキの自然復帰は、関係者の皆様の今日までの大変なご苦労と佐渡島民の皆様のトキに対する愛情の賜と敬意を表します。

本号では、トキの自然界でのひな誕生を機に「佐渡の畜産」に寄せる想いを、佐渡市農林水産課長 渡辺竜五氏と肉用牛農家の佐渡市入川 池野俊男氏に綴っていただきました。

今後、多くのトキが舞う島、安全・安心な畜産物を生産する島としての佐渡市の発展を心から願うものであります。

(鈴木哲也 記)